

昌慶苑のお獅子

春^{はる}が來^{きた}た
春^{はる}が來^{きた}た
何處^{どこ}に來^{きた}た
~~~~~  
野<sup>の</sup>に來<sup>きた</sup>た  
山<sup>やま</sup>に來<sup>きた</sup>た  
里<sup>さと</sup>に來<sup>きた</sup>た



の食<sup>た</sup>べるのまで分<sup>わ</sup>けてやつて兄<sup>い</sup>弟<sup>てい</sup>を可<sup>か</sup>愛<sup>あい</sup>がつて呉<sup>く</sup>れます、お食<sup>し</sup>事<sup>じ</sup>が

破竹の勢を以て

鐵道に於けるハバロフスクよりノ報として修  
 路の處に於ればモシヨノフの部隊はア  
 イムスカヤを退却したりと致し右の  
 イムスカヤを退却したりと致し右の  
 處に於ればモシヨノフの部隊はア  
 路の處に於ればモシヨノフの部隊はア

ポロシエウイキを利用して露國を  
白衛軍を助けポロシエウイキを  
の自衛軍を助けポロシエウイキを  
排除し來れる最近の實例は獨逸が

るも過激派思想は元より獨逸の帝  
主義と水炭相客れざるもの既に  
十廿三ヶ年吸ひたる以上若蘭に將  
た小黨匪に自國の思想を極端なる

◆漸やく日本で肝が出来てゐる  
製鋼所長 平田徳太郎

泰西の進歩が潮の様に世界に押し寄せると泰西人か  
 島嶼と思はれてゐた我々の間に、先進國とな  
 一つ日本で出来ないものがある。色々の文物が輝き出  
 来る處の好景氣に世は賣つて爲す事はざるなし

東洋の夢 天支視測に依つたもので  
 日本では僅かに  
 十年を經過すれば必だ舊蹟す  
 ものであると云ひ朝鮮なども  
 日本も千年の先の塵が出來てゐる  
 云ふが實質の隙は其處までな  
 今日内地では中央氣象臺で編纂  
 朝鮮では視測所でも作つて居る  
 其の材料の悉くが米國其他外國

が十五日夜來の大雨にて農民は何れも愁眉を掛けろいふ年哉

●不景氣知らず  
迎日地方は豊漁にて昨年度十二月より本年三月に涉り豊漁

引二 一等捕鯊 二 等四十箇  
三 等三十箇 活鰻七貫、金廿百

於ては、道に於けるものなり。然るに、此の道は、  
上層氣象即ち空山の觀照をもし  
ければならぬ事になつた之は、飛  
機學の爲めには殊に必要で數千  
から幾められてゐるので外圍で  
段々此の御訓を實行してゐる處  
あるが日本には未だソレが出来  
ない云は結局は其の機械が無い  
である普通の人は之を理解出来な  
だらうが今日一日でも観ぐべか  
ざる曆の短き彼れは決して日本  
出来るものでない眼では曆は

研究の趨きにも上つた事であるが金と人との問題で容易に出来得る事でないといせられてゐた處が、今では成金の連中は幾らでも金は出すと云ふのだから扱て金は出してゐるが無いと云ふ始末である

**大雨と農家**

平壤に近の耕作物は糧小麥、粟、蔬菜、甜菜、棉花類中發芽以來降雨多かりしため一般降雨を望み又た雨苗代も用水をなすため播種又は補作をなすことを得ざりし最も勝きものにて一千圓を賣るす平均四千二百圓内外の漁獲を計し昨年同様に於ける總漁獲高は五十九萬圓にして本年より遙に多かりしが右は數量に於ては本年と大差なかりしも本年は昨年に比し相堪落し甚だせるぬめなる由本年に於ける鯉の相摺は一同二千尾最低四十二圓より最高七十二圓に昨年の相摺は最高五十圓最低三十五圓なりといふ所に同地方漁民は本年豊漁の好影響を受け何れも不意に知らずのホクトノもの

「一週間の御子に行き事になりました、いよいよ」  
 目君は東京の上野の動物園に主  
 達行する事が出来得るが今は日  
 に金は有る然し金はあるつも出  
 ない仕事に今に幾らも横はつて  
 第一我々の仕事から云つても

門の驛から汽車に乗せられた某日、伯父さん氣取りで大人しくな  
君野を見ても山を見ても只獨りでありましたトナ

動けない航海者に取つては實に大  
なる問題であらねばならぬ唇が  
くは太平洋の真中に船は立往生を  
したければならぬ事となる之等  
の最痛切な問題は二萬三千圓にして

北迎日歸に於て漁獲せる鰯は約七  
十萬圓の巨額に達し右は完税船  
額百七十圓割剩二百九十を以て漁  
獲せるにして同期間舊網一張

いっ  
母  
す  
あ  
ん  
い  
な  
せ  
ん  
あ  
ん  
ん  
れ  
は  
兄  
は  
た  
し  
昌

3



旅立ちする事になりました、お母さんが『茶目、随分身體を大切にしていね、東京へ行つても餘りお惡をして坊ちゃんや嬢ちゃんに嫌はれないやうにね……』と泣かますと、兄さんも姉さんも『お大切に……』と泣いて別れを悲しんでゐるに茶目若く一人は大泣きしてゐる。二三日經つて京城のお母さんからお相手をして遊んで居ります。やん達の一年一度のお祓ひの五月五日の端午の節句の當日に姉さんはお祓をして猫のやうな赤ちゃんを二人生みました。

母さんなんぞ京都から此處まで出て  
行して居るのに、私も旅行がし  
いねえ」と云つて居ります。母  
さんは茶目君、眠れないのかと思  
つて「茶目もやん、茶目もやん、  
どうしたの？」と遊をかねます  
茶目君大きな鼻をかいて「ムニム  
ニ」ところが茶目君のこゝろを  
寝言を神祕が聞いてて可愛相思  
つて下さつたか、顔がかなつてせ

小父さんと萬事の話をきめて、最  
う標もすつかり咲いた四月の十六  
日四年間住みなれたこの昌慶苑や  
よく遊にきて呉れた幼稚園の坊ち  
を、


大暴れで小父さんと鐵道の入道  
を困せられました、そして釜山  
からは致方なしに大阪商船の富島  
丸に特に乗せられて廿七日やつと  
神戸に上陸しましたが茶目君の思  
つたやうに旅は楽しいものでない  
程を知り、泣いて逃つて呉れたお  
母さんや兄さん達に済まないと思  
ひました。東京に著いたのが卅日  
一週間ばかり疲れを休めて、今で



以馳走までして頂くのだからこんな  
嬉しい事はないではないか」と山  
します。けれ共茶目君なかく聞  
き入れません。朝起きるところから  
寝るまで、寝てから夢の寢言に  
で「私も外に出て遊びたいねわ、

4  
 来て、昌慶苑の動物園の下郷山の  
 上野動物園の黒川の小父さんが  
 泣き出した野で「ウオーウオー」  
 になり大きな野で「ウオーウオー」  
 泣き出した。黒川の小父さんが  
 牛肉をやつて慰めても食へもしな  
 いで遂には汽車の中で来目君舞鶴

野動物園の黒川の小父さんが、  
昌盛苑の動物園の下郡山の  
なり大きな野で「ウッオーウッオー」泣き出します。黒川の小父さんが牛肉をやつて慰めても食べもしないで遠は汽車の中で来目君舞臺



內科  
京城黃金町  
三丁目赤門町  
本田醫完

遊藝  
船正  
樂  
共樂社  
電報五二八番社主富山武盛

贊化病  
東京明治町一丁目  
電話四二八番  
內科  
小兒科  
入院隨着

144







・刊朝日九十  
(頁八てせ併と刊夕朝)

新司法制度創設十周年に際して

あつて當時たうじの灰わいれると燃もは又元またもとに歸かへつて一時弛じ緩かんはつた

實施されてか  
決津類を  
見るに  
數十萬の死刑者

石の手足等を斬て  
痺い處に手の屈くや

上公使も熱心に我を回顧して轉た感慨無量である

末葉

有仁官及有私官者及西洛上

京 城 竹 内 茂 市

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|



司法權委託以

自併合至現時

第一種 (二町步以内ノ地主トナルモノ) 九百四十戸

100

[illegible]

遊船俱樂部

通

事務員採用 齡廿六七歳より卅

朝鮮パナマ帽子

まゐさん質店の質物を買収し引換

三三八 楠商店

柔術道場

手形法

大日本主 上京國錄

科  
理  
小  
說  
集  
三  
卷  
九

七) 行政警察法 堀武男











大阪 中谷 青霞

一生

ちやん嬢ちやんの良き御友達なり(十三、錦  
東京麹町區富士見町一二三(二葉社)  
▲少女(六月號) 原色版カラーセツト版等  
口繪多く記事としてはお話を聴く作法・

17. 35 票

明治十年、適齡は同年身體検査を受ける  
明治四十一年徴集すから本年度懸呼す

少し胆を進める。  
『それでは敵がならぬわ、苦しい  
に死なうぞ。』  
『は、なれど餘りに。』  
『苦しいない、密々申し聞きたい  
儀があるのぞや。』  
『は、なれば御無禮申しまする。』  
『其儀は近々ご御前に進む。  
』  
『兵衛。』  
『は。』  
『面を擦けたが、親母は眼目して  
惱恨の狀、何事か云はんとして云  
ひ得ざる體。』  
『何事のごやりますん。』  
『兵衛。』  
『永の戦を遺すぞ。』  
『は、いッ。』  
とばかり、満兵衛は主の面を熟く  
と見上げたが、答ふべき言葉もな  
く、  
て謀略の密を前事と、熟々も  
れば、建部監十郎は當時出頭  
け者権威威者もなき役儀の  
身は八千石の一身の旗本、役  
ても附城の尾葉打拵す身の  
互に武道の意地を張つて、難  
もならば、家にもかゝる一  
よし始終の折衝に勝つてか  
家の理、御前の事表出出来  
祖先に對し何ぞ申聞か言  
しこは事急便に納むには如  
と招きに任せ、今建部が  
参りし處、果せるかな泣を所  
無増難い。云とあれば附出掛  
縁須磨の娘兄弟如何やうの  
出来さうとも計りはれず、事  
邸へ送さるればお家、無事に  
不易、何事のため常家の  
臣こそは如何やうの儀と  
れ、世所には子細もわはさ

[illegible]

—

季節にふさはしき色を選んで  
純白と淡紅色の間に幾十種  
季節と白粉の色  
（ミツ子交庫七五）

此は流行しましたお方がお召が  
なしたした語でございまして、  
御以前巴里の化粧品店で、  
欄に、純白色の白粉から、淡紅色  
の白粉へ移つて行きますに、その  
色が肉肌では見分けのつかない程  
細かに盛めされた見本が、幾十種  
となく瓶に入つて並べられてあつ  
た。お客の御婦人方も、  
中々眼より趣味なるが發達して居  
りまして、その中から自分の氣に  
入つた色の白粉を選んでお求めに  
なつていらつしやる云ふことで

市、毎朝の洗面に必ず皮膚の  
を叩ける。此のミツク石鹸を使ひま  
す。このミツク石鹸を  
すりこ、皮膚を刺激して荒す

▲中村梅玉曰く此があらわさ  
せて方にはじつと能くは  
で、又にはびける出づる位

顔が光澤を失ひ、  
けなめて、  
お化粧の時に重  
なりまして、  
す。このミツク石



ミツクに含有な成分になつて、  
す。



何方可  
云へば純白色の方が宜しうござ  
います。でもお顔の色の著く見  
粉のなづみをよくしますから  
ねます位お白い方は先づ此の淡紅  
色をお用ひになつた方が宜しう  
ございます。その上巴里の御主人  
が幾十種の中から御自分の御顔  
色な、お召物なり、その場所なり  
にお似合になる白粉をお選びに  
なます様に、日本の御主人方も此  
の淡紅色と純白色をうまく塗り  
合せて、全體を純白粉であけて顔  
なり、目の縁なりをほんのりと淡  
紅色でぼかすと云ふ加減も出来  
ます。さて云へば、さて、それ  
が、巧にほんのりとばかされて  
見ゆる様になりますには、お化粧  
の士達になります。地膚を磨へて白粉  
ののりのびをよくして儼かなけれ  
ばなりません。それには何日の入

を皮膚に擦込む様に塗ります  
粉のなづみをよくしますから  
化粧粉が塗つて美しく出来る  
ります。

醫學士 小川 通雄

家庭治療法 四六版

本書は日常病、易き疾病、  
皮膚症、瘡、下疳に就き  
家庭に於て施し得る治療  
を丁寧に叙へ、醫師にか  
らまでの親切な日課、指手  
なるものである。定評金  
拾萬。但し其細部、郵  
不苦」を語へ御申込  
ば一冊送ります。東京日本  
區橋町丸見屋南商店（振  
東京七二〇番）

金井眼科醫院



第三學年九月 日後六曜  
門司、宇品、利戶、大坂行  
第三學年九月 日後六曜  
常山、世田、立門、大池、回、漕  
本館、取、拔、店

部出出

才清社代理店  
京城荷客取扱店  
京城南大門驛前松  
京運送  
(其他各寄港地ニ荷客取扱店アリ)

磨歯

家庭の愛用品たる

常川せらるる三大理由

歯を強く又白ならしむ

純真無比の高貴原料を使用す

芳香並に防腐殺菌力強大なり

大阪 丹平商會發賣

[illegible]

水の滴るような  
 静かな黒髪はるかな  
 御使用にされる  
 木品を  
 最も好んで  
 良き御用油



# 為 氏 油

支店 大森 源之助 助 丁 四 町 森 久 源 大 森 源 之 助 支 店

早川保次君編  
 改定増補  
 第四版  
 郵税八錢

[illegible]

**花柳病專門**

梅毒 淋病 橫痃 魚口 楊梅瘡 下疳 痔瘡 脫肛 疝氣 婦人經閉 產後諸症 小兒驚風 疳積 蟲積 諸般雜症 無不藥到病除

**司生堂醫院**

電話三六五番

**大阪商船會社**

**汽船出帆廣告**

仁川出帆

○ 敦賀丸 五月廿七日 元山發  
○ 浦島丸 五月廿九日 元山發  
○ 雄基丸 五月廿五日 元山發  
○ 京畿丸 五月廿五日 元山發  
○ 成鏡丸 五月廿四日 元山發  
○ 元山雄基丸 五月廿二日 元山發  
○ 穩城丸 五月廿二日 元山發  
○ 平安丸 五月廿四日 元山發  
○ 關門行 五月廿六日 元山發  
○ 陸那丸 五月廿六日 元山發

[illegible]